

## 特集「情報処理技術のフロンティア」の編集にあたって

内元 清 貴<sup>†</sup> 中野 幹 生<sup>††</sup>

情報処理学会のフロンティア領域に属する分野では、次世代の情報技術の発展のために、さまざまな研究が行われている。近年では、フロンティア領域の各分野間にまたがるような研究も増えてきている。そこで、フロンティア領域の最新研究を概観できるような論文特集を組むことにより、現在の研究の潮流を示すことを目的とした。

本特集は次のような経緯で企画された。情報処理学会と電子通信学会システムソサエティ・ヒューマンコミュニケーショングループは、2002年より共同で、情報技術フォーラム(FIT)を開催している。FITでは、査読つき論文の募集が行われ、複数の査読者が査読を行っている。特にFIT2005からは、FITの査読つき論文が学会論文誌に掲載されているレター、テクニカルノート、ショートペーパー、研究速報等と同等の位置づけであることが確認され、従来にまして厳密な査読が行われていることから、著者へのフィードバックにも、論文を修正し研究を発展させるのに有益な情報が多いことが期待される。したがって、FITの査読が終了した時点で特集論文の募集を行うことによって、FITの査読結果にしたがって論文を修正し、研究を発展させた論文の投稿が期待できる。具体的には、FITの査読の結果、情報技術レターズに採録された論文は、その研究を膨らませて、フルペーパーとして投稿され、不採録となった論文は、テクニカルノートとして投稿されることが期待できる。さらにFITの一般論文(査読なし)を元にした論文投稿や、その他一般の投稿をあわせ、質の高い特集論文を集めることが可能であると思われる。このようなことから、FITの自然言語処理分野の委員であった内元と中野が情報処理学会論文誌および電子情報通信学会論文誌「情報・システム：D」において特集号を企画することを提案した。検討の結果、FITに関連する特集号を情報処理学会と電子情報通信学会が隔年で企画する方向で検討すること、2005年度は、先に検討が進んだ情報処理学会論文誌でフロンティア領域に絞って企画することが決定した。

本特集では、フロンティア領域の各分野(自然言語処理、知能と複雑系、ゲーム情報学、音声言語情報処理、音楽情報科学、バイオ情報学、コンピュータビジョンとイメージメディア、エンターテインメントコンピューティング、人文科学とコンピュータ、電子化知的財産・社会基盤)、および、関

連する分野の論文・テクニカルノートを募集した。

本特集号には52件という予想以上の投稿があり、この投稿数の多さに対応するため、急遽若干名の方々に新たに編集委員になっていただいた。そして、厳正な査読の結果、19件が採録となった。投稿および採録された論文は、自然言語処理、音声言語情報処理、音楽情報科学の分野で約3/4を占めており、やや分野の偏りが目立っているものの、そのテーマは多岐にわたり、当初の目的はおおむね達成できたと考えている。また、結果的には当初の期待どおりに論文が集まったわけではないが、投稿数の多さが示すようにフロンティア領域研究者の本特集号に対する関心は高く、特集号としては成功であった。

来年度は電子情報通信学会論文誌Dの特集号として、FIT2006で発表された研究およびそれらを発展させたものを中心とした特集号「ユビキタス時代の情報基盤技術」(平成19年6月掲載予定)が企画されている。今後、ますます分野の裾野が広がり、学際的な研究が増えていくことを期待している。

初めての企画で至らぬところが数多くあったが、論文誌編集委員長の西田豊明先生や論文誌編集委員会主査の黒橋禎夫先生、本特集号の編集委員の先生方、および、電子情報通信学会和文論文誌D編集委員会の皆様のお力添え・ご協力により、無事、掲載の運びとなった。諸先生方には、この場を借りて、お礼を申し上げます。

### 「情報処理技術のフロンティア」特集号編集委員会

- 編集長  
内元清貴(NICT)、中野幹生(HRI-JP)
- 編集委員  
石井信(奈良先端大)、伊藤毅志(電通大)、今井倫太(慶應大)、黒橋禎夫(京大)、小西達裕(静岡大)、白井清昭(北陸先端大)、鈴木卓治(国立歴史民俗博物館)、関口大陸(東大)、中野潔(大阪市立大)、西田豊明(京大)、堀内靖雄(千葉大)、山田武志(筑波大)、松居辰則(早稲田大)、森辰則(横浜国大)、大和淳司(NTT)、和田俊和(和歌山大)

<sup>†</sup> 独立行政法人情報通信研究機構

<sup>††</sup> 株式会社ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン